

3 漢字の音と訓

p.44 3-1 解説

1 漢字の音と訓…漢字の読み方には、「音読み」と「訓読み」があります。

① 音読み…漢字が中国から伝わってきたときの、中国の発音をもとにした読み方。

→ 音を聞いただけでは意味がわかりにくい。

② 訓読み…漢字の持っている意味を、日本の言葉にあてはめた読み方。

→ 音だけで意味がわかることが多い。

[例] 草 音読み=ソウ(草原) 訓読み=くさ(草が生える)

※音訓の区別がまぎらわしいもの

[例] 絵…音読み=エ・カイ(訓読みはない)

本…音読み=ホン 訓読み=もと

2 二つ以上の漢字が結びついでできた「熟語」の読み方

① 音読み…両方の字を音読みする。

[例] 天気 明暗

② 訓読み…両方の字を訓読みする。

[例] 朝日 青空

③ 重箱読み…上の字を音、下の字を訓で読む。

[例] 本屋

④ 湯桶読み…上の字を訓、下の字を音で読む。

[例] 身分

⑤ 熟字訓…二つ以上の字をまとめて一つの訓で読む。

[例] 大人

3 いろいろな読み方

一つの漢字にいろいろな読み方があるものや、同じ漢字で表された熟語にいろいろな読み方がある言葉もあります。それぞれ、送りがなや文章中での使い方から読み方を判断します。

[例] 通： 通(とお)る / 通(かよ)う → 送りがなで判断

色紙：色紙(いろがみ)でツルを折る。 / 色紙(しきし)に寄せ書きをする。 → 文章で判断